

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1148
施設名	キッズタウン下落合保育園
施設所在地	新宿区下落合1-9-10
法人名	社会福祉法人こうほうえん

1. 活動のテーマ

<テーマ>

保育園にビオトープを子ども達と一緒に作り、子ども達、保護者、保育者が自然と出会い、身近に感じることで、面白さを感じ、遊びや学びへと繋がることを目指していく

<テーマの設定理由>

- ・園庭がない保育園では、身近に自然を感じる機会が少なくなるため
- ・子どもたちの様子から、生き物への興味関心は強く持っていると思われるため

2. 活動スケジュール

4月①メダカを育てることを決定(図鑑で調べ、金魚屋を訪問)
5月②設置準備(草むしり、穴掘り)
6月③ビオトープ完成(メダカ・エビ・ドジョウ・ドブ貝を放流)以降観察を楽しむ
④ハーブ、フウセンカズラを植える
7月⑤暑さにより魚の死が見られる→水を注ぎ続ける、水換え
8月⑥生き物の失踪→防犯カメラの設置
9月⑦メダカの稚魚が2匹誕生
10月⑧台風後、稚魚が失踪。
⑨暑さに強い金魚を育てる→循環ポンプを導入
1月⑩カラスの侵入→かかしの設置
2月メダカ失踪の報を知った新宿社協部会からの紹介で新宿区立あゆみの家にて40匹以上のメダカを頂く(4, 5歳児クラスの水槽で飼育)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・プラスチックの池
- ・生き物や砂利、水草を購入
- ・案山子を制作、設置

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・年長にじ組とともに土を掘り返しプラスチックの池を埋める
- ・地域の金魚店で相談したのち、生き物や砂利、水草を購入
- ・生き物を放流し、全クラスで観察を行う。その時の子どもたちの様子や呟きを保育者は捉え記録しておく。
- ・害獣避けに子どもたちと相談して、案山子を制作、設置

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

【保護者から寄せられた声】

- ・ビオトープの生き物の説明をしたり、質問してくることが多くある。
- ・これまで生き物や自然に関心がなかったが、図鑑をじっと見たり会話に出てくるようになった。
- ・家庭にも作ろうという話がでた。
- ・生き物に興味を持つことが分かったので、触れる機会を増やした。（動物園、図鑑の購入、幼虫の羽化）

【保育者から見た子どもたちの様子の変化】

- ・においのある餌に触れることを嫌がらなくなった。
- ・観察を通して、これまで関わりのない異年齢児、保護者が一緒に話す姿が見られるようになった。
- ・連絡帳でビオトープを見て楽しんだという報告が多数見られた。
- ・話し合いを繰り返す内に、保育者の介入がなくても、考えを言葉にして伝えることが上手になった。（5歳児担任）
- ・普段の園内の飼育物より、自分達から発信した生き物の世話や生態系に興味を持つ姿が印象的だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・準備期間から、答えを先回りせず、子どもたちの考えを待つことの重要性を感じた。また、ビオトープの観察は、親子の憩いの時間となったり、また保育者と保護者の連携を深める手段となった側面も感じた。